



# 第76回 日米学生会議

The 76th Japan-America Student Conference

2024/8/3 - 8/24

Los Angeles - New Orleans - Washington D.C.

主催：一般財団法人国際教育振興会  
企画/運営：第76回日米学生会議実行委員会  
後援：外務省、文部科学省、米国大使館、一般社団法人日米協会  
賛助(予定)：公益財団法人三菱UFJ国際財団、  
公益財団法人双日国際交流財団、尚友俱樂部、他



# 目次 (ページ)



03 日米学生会議理念

04 実行委員長挨拶



05 第76回日本側実行委員会

06 日米学生会議の活動



07 開催地紹介

08 分科会紹介

10 過去参加者の声

11 その他情報



12 募集要項



As one whose own first involvement in Japan-US relations was under the auspices of the Japan-America Student Conference in 1939, I can tell you honestly that it was one of my formative events of my lifetime. Having stood in your shoes more than fifty years ago, I sincerely hope that you will take full advantage of your participation in JASC.

### 宮澤喜一氏

第78代内閣総理大臣 1939/1940年参加者

## — 日米学生会議理念 —

世界の平和は太平洋の平和にあり、  
太平洋の平和は日米間の平和にある。  
その一翼を学生も担うべきである。

I had had little opportunity, in this post-war period, to meet and exchange views informally with Japanese people. The Japan-America Student Conference provided that opportunity, and from it came many valuable new perspectives on Japanese culture and society. It was also at that time that my interest was awakened in Japanese artistic and aesthetic traditions, and appreciation which remains with me to this day.



### ヘンリー・A・キッシンジャー氏

元アメリカ合衆国国務長官 1951年参加者

# 日本側実行委員長挨拶



日本側実行委員長  
小金山 智弘  
慶応義塾大学

これまで戦争等を理由に中断を余儀なくされたこともあった日米学生会議だが、多大なるご支援ご協力のおかげで本年創立90周年を迎えることとなる。私達が第76回会議のテーマに掲げた「**回視～共に理解し、明日へと還元する～**」には、長い歴史を振り返り、過去の参加者の経験や培ってきた視野から学び、日本とアメリカにおける相互理解を深め、未来へとバトンを繋いでいきたいという想いが込められている。

さて、来夏の会議は新型コロナウイルス流行終息後初のアメリカにおける対面開催となる。「日本最古の国際的學生交流プログラム」として、先代達が繋いできた伝統を継承する責任をひしひしと感じると共に、新たなスタートを切れる事を非常に誇らしく感じる。環境問題の解決に向けて開発中の科学技術や「人種のもつば」と称されるほどに多様な文化が入り混じった社会など実際にアメリカに身を置くことによって初めて深い理解が期待できる事柄は枚挙に暇がない。

また、様々なバックグラウンドで学問に打ち込んできた学生達が個々の強みを存分に活かして議論に打ち込めるこの環境は唯一無二であるといっても過言ではないだろう。

一参加者として、3週間寝食を共にし、未来を担うリーダーの卵たちと本音の議論を行えた事は非常に楽しく有意義な時間であった。そして、実行委員として作り上げる第76回会議ではこうした議論の時間を充分に取りつつも、インプットする知識量の向上を目指し、様々な組織・企業様と連携し、プログラムの企画を進めていきたい。専門分野をより深める仲間が欲しい・白熱した議論をしたい・私達と非日常を創り上げたいという諸君は是非ご応募願いたい。

# 米国側実行委員長挨拶

Celebrating the 90th anniversary of the exchange between Japanese and American university students, the Japan-American Student Conference holds a profound legacy of peace and understanding between our nations. JASC provides us a unique opportunity to engage in open dialogue, to listen attentively, and to empathetically consider the diverse concerns, worries, and struggles that shape our shared tomorrow. This conference isn't just an academic endeavor; it's a transformative space encouraging self-discovery. I encourage each incoming delegate to embrace this unique opportunity, letting it kindle creativity, inspire innovative ideas, and deepen collaborative spirits within our communities.

The theme of JASC76, "**Visions: perspectives reflected from the past - together understanding, contributing for the future**" serves as the guiding light for our conference. It reminds us that we stand at the intersection of history and possibility, where the lessons of the past are the foundations we build upon. It encourages us to empathetically understand diverse perspectives, fostering an environment of mutual respect and cultural appreciation.



米国側実行委員長  
Ka Yan Tam  
University of Southern  
California

# 第76回日本側実行委員会

## 財務



実行委員長  
**小金山 智弘**  
慶應義塾大学  
環境情報学部



副実行委員長  
**荒木 太一**  
慶應義塾大学  
経済学部

## 選考



**宮本 希**  
国際教養大学  
国際教養学部



**富澤 新太郎**  
東京大学  
教養学部



**バック  
キャスリーン光**  
国際基督教大学  
教養学部

## 広報



**志田 夏音**  
岡山大学  
工学部



**佐野 百美**  
早稲田大学  
国際教養学部



**福井 達於都**  
慶應義塾大学  
法学部

# 日米学生会議の活動内容

## 参加者決定

### 春合宿 4/27-29

※参加必須

参加者は、4月からオンライン上でミーティングを行い、4月下旬の2泊3日の春合宿にて初めて対面で顔合わせをします。春合宿では、過去の参加者と語り合い日米学生会議の歴史を学びます。加えて夏の本会議に向けて議論を行い、日米学生会議の基礎を学びます。

## 安全保障研修

日本の将来の平和と安全を担う自衛官の幹部候補生養成を目的とする防衛大学校を訪問します。日米関係を考える上で極めて重要となる「安全保障」についてより詳しく学ぶために同学校の学生と対話の機会を持ちます。学生という共通点はあれども、厳しい訓練や規律の中で学ぶ同学校学生の姿に刺激を受けます。

## 自主研修

夏の本会議に向けて、社会問題への理解を深めることを目的に自主研修を行います。第75回では台湾を訪れ、安全保障やサプライチェーンについて学びました。

第76回では韓国を訪れ、韓国が太平洋間の平和において果たす役割について様々な角度から議論し知識を深めていく予定です。

## 本会議 8/3-24

※全日程参加必須

本会議では、日米の学生が約3週間に亘って寝食を共にしながら、米国の都市を巡り、見識を深めつつ議論を深めます。分科会におけるディスカッション・フィールドトリップ・文化体験・講演会・現地学生との交流を行い、各サイトでのフォーラムを通じ日米学生会議における学びの集大成とします。

# 開催地紹介

## LOS ANGELES



1700年代にスペイン人宣教師によって創設された「天使の街」・ロサンゼルスは、その後目覚ましい成長を遂げアメリカで2番目に大きな都市となった。ロサンゼルスは貿易と製造業の中心地となり、特に「創造都市」として知られている。それを象徴するように映画産業で有名なハリウッドが位置している他、住民の6人に1人がクリエイティブ産業に従事している。このようにアメリカ合衆国の中でも随一の多様性に富んだ都市である一方で、ロサンゼルスは複雑な歴史を背景とする負の側面に長年苦しんできた。

参加者はこの地で、日本からアメリカへの移民の思い出の地であるリトル東京を含む、様々な場所を探検する。世界各地から集まった人々が共生を目指してきた歴史、資本家階級と労働者階級のせめぎ合いの歴史、そしてその中で紡がれてきた芸術や表現が参加者を待ち受ける。

## NEW ORLEANS



ニューオーリンズは、フランスとクレオールの影響を受けながら、ハリケーン・カトリーナによる悲劇に苦しみながらも、豊かに独自の文化を発展させてきた。その結果として、現在、音楽・食・建築・方言などあらゆる側面で世界に名を馳せている。2005年には、街の8割が水没し、約1800人の命が奪われた。あまりの被害に再生は不可能との見方もあったが、人々の努力の甲斐あって、ニューオーリンズは再びエネルギーを取り戻しつつある。

参加者は、プログラムを通し、この「復興都市」で、一つひとつの文化がどのように作用しあい、独自の文化を創り上げるに至ったのかを学ぶ。さらに、都市の政策決定が人々とその文化にどのように影響を与え、災害などの課題に対応してきたのかについて考える。

## WASHINGTON D.C.



2024年で創立90周年を迎える日米学生会議の創設当時から、アメリカ合衆国連邦政府が位置するワシントンD.C.は強大な政治的影響力を保有する「世界都市」として国際社会の平和と安定に貢献してきた。参加者は、このワシントンD.C.で、歴史ある政府機関・国際機関を訪問し、それらが果たしてきた役割に思いを馳せる。

80年前、私たちは太平洋戦争を防ぐことに貢献できなかった。その反省を活かし、不安定化するインド太平洋地域の平和と安定のために、大統領選間近のアメリカで、政治の最先端を学ぶ。また、3週間の学びや議論の集大成としてファイナルフォーラムを開催する。

# 分科会紹介

## 分科会とは？

- ・当会議において活動の中心となるグループ
- ・参加者4人+実行委員1人または2人で構成される
- ・本会議まで週1回、オンラインでミーティングを開きディスカッションを行う

\*フィールドトリップ

活動の中で分科会の研究テーマについての理解を深めるために政府機関・国際機関・企業・大学・NGO・NPO・研究所などへ訪問研修を実施することが可能である。

\*ディスカッション

参加者はそれぞれの興味に基づく分科会を選択し、議論をしていく中で知識を深める。

## 技術革新に伴う文化、芸術の変容分科会

-文化、芸術は技術の発達と共にいかなる変容を遂げるのか-

技術革新に伴うデジタルプラットフォームの台頭により、芸術のフィールドは爆発的に広がった。今日、インターネットを通じ、かつてないほどに情報世界に露出されている我々はインフルエンサーという新しい肩書を得たアーティストと日々対峙している。文化、芸術、テクノロジーの融合はトレンド分析を加速させ、人々の行動に影響を及ぼすまでに至った。技術の進化によって文化や芸術の生まれ方や提供のされ方も変わった今、それらは我々にどのような影響を及ぼすのだろうか。また、これらの共有されたデジタル空間は日米関係において新たな文化交流、技術革新、そして国家間の絆を強化する道を見出すツールとなり得るのだろうか。

## 環境経済とエネルギー安全保障分科会

-現実を知り、現実を問い直す、現実的な議論-

パリ協定以降、各国は経済界の脱炭素潮流に後押しされ、カーボンニュートラル (CN) 宣言・ESG投資支援拡充を行い、日本も再エネ・省エネ・原子力等を中心に脱炭素を推進している。一方、依然世界は化石燃料に依存し、2050年CN実現は見通せない。バイオマスや核融合等の技術は経済合理的な段階になく、炭素税やLNGシフト等は南北問題を顕在化させている。日本社会は、「最も成功した社会主義国家」と形容されたが、平成以降、急速に現下の変動性・不確実性著しい生の資本主義に翻弄され、苦境にある。本分科会は、環境・エネルギーをテーマに、国際政治・科学技術・市場動向等の観点から現状を十分に分析し、資本主義的な政治・経済の見方を養うことを目指す。

## 表現と規制分科会

- 「 」 -

表現において自己の中にある意図全てを他者に伝えることは出来ない。さらに言語の違い、法律、フレームワークといった様々な規制を得て表現は変容する。本分科会では、人間によるあらゆる表現及び、それに伴う規制の存在に注目し、議論を構築する。日常「会話」により生まれる疑問、表現の自由の存在、芸術や言語の違いから日米の表現方法の違い、人間による表現の潜在的動機。知識、経験、考え方、全てを議論において等価値の要素と認識し、特異な環境・経験の中で、多様な価値観をもとに幅広く「表現」を捉え、議題を見つけ、深く思考し、またそれを表現し、己の表現の変容・誕生を楽しむ者を歓迎する。

# 東アジアにおける日米関係分科会



## -東アジアの安泰は世界の平和に直結する-

中国や北朝鮮といった東アジアにおける権威主義国家は、領域問題やミサイル問題など様々な問題を引き起こし、近隣諸国との軋轢を生んでいる。これに対し、日本とアメリカは強固な関係を築き、両国を牽制して新冷戦と呼ばれる構図が形成されている。欧州もインド太平洋戦略の名の下、台湾や朝鮮半島など情勢が不安定な東アジアに関与する姿勢を強めている。一方、第三極として成長著しい東南アジアは、両陣営から適度に距離をとる漁夫の利戦略を画策している。以上の背景を踏まえ、本分科会では、現在最も重要な二国間関係のひとつである日米関係と東アジアの関係を再検討し、東アジアにおける日米関係の理想と現実的な施策について議論する。

# 社会起業家分科会



## -起業による社会変革-

グローバル経済のもとで、企業活動は国境を越えて展開されるようになり、企業の国籍は無意味化した。こうした流れの中で、国民国家では解決できなかった人類に共通する課題の解決主体として、企業価値のために合理的な経営行動をとる企業への期待が高まっている。しかし、それらの多くは利益追求型ビジネスの域を出ていない。そこで本分科会では、既存の枠組みにとらわれず社会に蔓延する理不尽の解消を目的として業を起す社会起業家の姿を日米の社会起業家のケーススタディを通して検討する。企業として持続可能な利益を上げることと、人々や環境に対する支援をどのように両立するのか、なぜ起業による変革なのか、日米から世界へ目を向けつつ、ともに議論し、探究する者を歓迎する。

# 社会運動と人間心理分科会



## -個人と社会の交差と変容-

個人の思考、感情、行動は社会によってどう影響を受けているのだろうか。また、個人は社会にどう影響を与えられるのだろうか。本分科会ではこの問いを軸に人間の内発的変化と社会の変化による外発的影響の対比から、個人が社会でどのような役割を担っているのかを様々なケーススタディを通して検討する。想定されるトピックには政治的観点から日米の市民活動やプロテスト文化の違い、社会心理的観点から社会的容認と個人のニーズの衝突、歴史的観点から巣鴨プリズンやアメリカの日本人収容所などを取り上げ、文化的観点から言語の基盤の違いを考察する。これらの観点を学際的にインプットした上で、独創的かつ質の高い議論をアウトプットする。

# 福祉と倫理分科会



## -現代社会における個と集団のウェルビーイング-

「健康で文化的な最低限度の生活」が意味するものは、環境によって大きく異なる。本分科会では、個人・集団のウェルビーイングと私達が下す選択、行動、政策を導く倫理観の関係を多面的に探究していく。具体的には、医療・経済・社会的正義・持続可能性・動物愛護など人間のみに限定されない様々な角度から「福祉」とその背景にある「倫理」的枠組みについて掘り下げ、議論を行うことが想定される。あらゆる角度からインプットしたのちに、最終的には現代社会が直面している問題に立ち向かい得る策をアウトプットできることを期待する。また、机上の空論で完結しない白熱した議論を作り上げられる参加者を歓迎する。

# 過去参加者の声



日米学生会議という文字を見て、あなたは最初に何を思っただろうか。私は「自分には関係ない世界」と思った。自分には専門も海外経験もない上に、目標も明確ではなく、優秀な学生の中に入って議論をする自信があるはずもなく、自分を肯定できずにいた。しかし、いざ始めると、JASCでの経験は、単なる学生交流ではなかった。心からの会話、衝突、悔しさと助け合いの繰り返しの中に、自身が進むべき道のヒントを見つけた。とても言葉に代え難い経験だ。あなたがもし、JASCを遠い世界のことだと感じていたり、現状を変えたいと感じていたら、チャレンジしてみたい。JASCで私は自分の世界を変えるきっかけを得たからだ。

鈴木 涼 国際教養大学



When I applied to JASC 75, I saw how JASC's mission aligned with the kind of space I wanted to be in long-term. I knew I wanted to work with my interests across Asia and America, but I wasn't really sure what the future would hold for me. Not only did JASC allow me to think about all of these interests with new and rich inspirations, but I was pushed to grow as a person as I navigated new cross-cultural relationships and difficult histories. It was definitely an unforgettable experience with so many small memories.

Shine Lee University of California, Berkeley



私がこのJASC 75に参加してわかったことは、月並みだが「どこまで行っても自分の人生を切り拓けるのは自分だけなのだ」ということだ。どんな経験も、どんな人との出会いも、素晴らしいものができるか、ただの思い出にするかはその後の人生をどうやって生きていくかにかかっている。ただ流されるままプログラムをこなすだけでは何も残らない。ひとつひとつの経験が自分の人生にどう活かせて、どういう人生にしていきたいのかを常に意識することが大切なのだ。このJASCという場は、間違いなく最高の共同体であり成長の場になれる。しかしその経験を活かせるかどうかは、自分自身にかかっている。少しでも興味が湧いた人は是非飛び込んで見てほしい。そして、自身を成長させる最高の経験にしてもらいたい。

佐藤 天音 防衛大学校



JASC opened up my world view giving me first hand experience with independence, leadership, language and cultural exchange. During this program I learned how to adapt to and manage multiple personalities, and improve my time management skills. I used our free time to explore, shop, and speak with the natives. I loved hanging out with friends and making late night runs to Family Mart. I will forever cherish all the fun times with my new friends both Japanese and American.

Leeanna Hays George Mason University

# その他情報

日米学生会議には“Once a JASCer. Always a JASCer”という言葉があり、過去の参加者同士の交流が継続的に行われています。会議参加者は以下のようなイベントなどの様々な行事を通して、大きなアラムナイネットワークに加わることができます。

## 〈ようこそ先輩〉

例年、春合宿の最初の企画として過去の参加者(=アラムナイ)と出会う、「ようこそ先輩」が開催されています。歳の近いアラムナイからすでに社会で活躍されている先輩まで、毎年多くの方と話す機会が設けられ、大きな刺激となります。

## 〈Salon de JASC〉

同窓会会員によって定期開催され、互いに交流する機会を持ちます。

## 【過去参加者(敬称略)】

秋山夏子(日蘭協会 理事)  
天野順一(元三井物産副社長)  
井伊雅子(一橋大学大学院国際・公共政策大学院教授)  
猪口邦子(参議院議員)  
今井義典(元NHK副会長)  
小林薫(産業能率大学名誉教授)  
グレン S フクシマ(元米国商工会議所会頭)  
細野恭平(ドリームインキュベーター取締役副社長)  
橋本徹(元みずほファイナンシャルグループ名誉顧問)  
降旗健人(元伊藤忠商事副社長)  
榎原稔(元三菱商事社長・会長)  
三浦俊章(朝日新聞編集委員)  
茂木健一郎(脳科学者)  
八木健(ベイビュー・アセット・マネジメント代表取締役)  
八城政基(元新生銀行取締役会長)

## 【過去日本側参加者出身大学】

東京大学 京都大学  
慶應義塾大学 早稲田大学  
国際教養大学 国際基督教大学  
大阪大学 九州大学  
東北大学 神戸大学  
北海道大学 一橋大学  
名古屋大学 防衛大学校  
青山学院大学 東京外国語大学  
上智大学 明治大学  
法政大学 中央大学  
学習院大学 埼玉医科大学  
東京医科歯科大学 東京工業大学  
東京都立大学 千葉大学  
筑波大学 順天堂大学  
立教大学 お茶の水女子大学  
立命館大学 宇都宮大学  
岡山大学 京都産業大学  
関西学院大学 立命館大学  
同志社大学 創価大学  
島根大学 群馬大学  
東海大学 弘前大学  
順天堂大学 名古屋大学  
等

日米学生会議は、2024年度で90周年を迎えます。  
各方面で活躍なさる5000人以上のOB・OGをこれまでに輩出して参りました。

# 募集要項

公式HPよりプレエントリー  
2023年12月2日(土)-

## 応募資格

- 下記①～④を全て満たすこと。
- ①2024年4月時点で、原則として、日本国内の大学(ただし、例外として、日本国籍を有しながら、日本国外の大学に在学する学生も含む)・大学院・短期大学・専門学校・高等専門学校(ただし、2024年4月時点で満18歳以上の学生)等に在学する学生(正規留学生含む)であること。
  - ②日本国籍または日本の「永住権」もしくは「定住権」を有すること。
  - ③下記の全公式プログラムに参加可能であること。
  - ④参加者発表後から本会議開始までの間、週1-2回の分科会毎の事前活動(オンライン)に参加可能であること。また、この事前活動に必要な予復習及びその他活動を、主体的かつ十分な質を追求して行えること。
- ※ただし、日本国外からの参加の場合、交通費等の補助はできません。

## プログラム 日程

春合宿 4/27-4/29  
直前合宿 8/2-8/3  
本会議 8/3-8/24

## 募集人数

28名

## 参加費

35万円  
(上記公式プログラムの  
移動費、宿泊費、食費を含む)

## 選考費

5000円

※賛助団体の支援により、参加者個人による選考費及び参加費における負担は大幅に軽減されています。  
また、参加費用に関しましては情勢により変動の可能性がございます。

## 一次選考

- ・参加申込書
  - ・小論文課題
  - ・分科会調査
  - ・提出課題(任意)
- (上記全て日本語で実施)

2024年1月19日(金)

23:59締切

## 二次選考

- ・集団討議(日本語)
- ・リフレクションエッセイ(日本語)
- ・リスニング問題(音源：英語)
- ・回答：日本語または英語)
- ・教養試験(日本語・選択問題)
- ・個人面接(日本語・英語)

2/20-2/24の間に2時間程で実施予定

参加者決定

【一般財団法人国際教育振興会 日米学生会議事務局】  
〒160-0004 東京都新宿区四谷1-6-2 コモレ四谷  
グローバルスタディスクエア3階  
TEL: 090-1140-4857  
jasc76.promotion@gmail.com (広報担当)  
jasc76.selection@gmail.com (選考担当)

【一般財団法人国際教育振興会】  
〒160-0004 東京都新宿区四谷1-6-2 コモレ四谷  
グローバルスタディスクエア3階  
TEL: 03-3359-9621

国際教育振興会は日米会話学院、日本語研修所の運営の他、外国人による日本語弁論大会、米国大学日本語研修プログラム等を実施しています。



説明会のご案内



@jasc\_official.jp



日米学生会議



@jasc\_ecs



第76回日米学生会議



<https://jasciec.jp/>